

## グローバルに取り組む環境マネジメント

フィリップ モリス インターナショナルでは、たばこ製造工場での環境マネジメントシステムの構築や、葉たばこ栽培における環境保護に積極的に取り組んでいます。

たばこ葉の栽培、たばこの製造、マーケティング、セールス活動など当社のすべての事業活動は環境に影響を与えます。フィリップ モリス インターナショナルは地球環境を尊重し、その保護に努めています。

サルバドール・リベラ  
オペレーション担当上級副社長  
フィリップ モリス インターナショナル

### コミットメントの遵守に向けた取り組み

フィリップ モリス インターナショナル (PMI) は、環境の尊重および保護へのコミットメントを遵守するために、以下のことに取り組んでいます。

- 関連する法令や規制の遵守
- PMIの事業活動が地球環境に与える影響の特定と評価
- 目的を達成するための測定可能な目標の設定と、目標に対する進捗度合いのモニターおよび報告
- PMIの事業活動にかかわるリスクを特定・評価し、それらのリスクを防止し分析するための適切な行動
- 危機管理プロセスの維持
- 予想される危険や関係する環境課題についての社員への情報伝達と訓練
- PMIの製造・加工施設の全拠点への環境マネジメント責任者の配置

PMIは、世界32ヶ国にある59の工場において環境マネジメントシステムを構築しています。このシステムでは、エネルギー消費や大気中への排気、廃棄物の量、水使用量など、PMIの事業活動が地球環境に与える影響を追跡することを、それぞれの施設に義務付

けています。その結果、PMIの13工場において、国際的に認められた環境マネジメント認証ISO14001<sup>※1</sup>を取得しています。主に日本市場向けのたばこ製品の製造を行っているドイツとスイスの2工場では、すでにISO14001を取得済みです。2010年には、すべての工場でISO14001とOHSAS18001<sup>※2</sup>を取得するべく取り組んでいます。

※1 ISO14001：国際標準化機構による環境マネジメントシステムの国際規格。経営方針の中に環境方針を取り入れ、その環境方針に基づいて計画、実施を行う環境マネジメントの基準となる規格。

※2 OHSAS18001：企業が労働安全衛生についての顕在化した危険性だけでなく、潜在的な危険性も洗い出し、それを継続的に改善していく仕組みを作るための規格。

### Good Agricultural Practice(GAP): 優良な農業の手法

PMIでは購入する葉たばこが環境を保護し、安定した収穫が確保される条件で栽培されるように努めています。

葉たばこの生産における持続的な発展とは、地球環境に与える影響を最小限にとどめる方法で作物を栽培していくことを意味します。その実践に向けてPMIでは「GAPガイドライン」を定めました。これにより、農家の栽培過程を評価し、その改善点を見極めることができます。

GAPとは、土壌、空気、水、動植物などの環境を維持、保護、あるいは改善すると同時に、経済的にも採算が合い、安全に、かつ高品質な作物を生産していくための活動のことです。また、持続可能な農業に向けた施策とは、代替燃料の使用、森林保護、および水資源の保全を含みます。

PMIのGAPガイドラインでは、農家に対して次のような測定可能な目標を設定し、毎年評価しています。

## 環境報告

フィリップ モリス インターナショナルは、どのような事業活動も環境に影響を与えるものであると認識しています。そのため、葉たばこ栽培における環境への配慮や、製造工場での環境マネジメントシステムの構築のほか、たばこ製造を行っていない日本においても活動に伴う環境への負荷低減に取り組むなど、すべての事業活動において地球環境の保護に努めています。

## グローバルに取り組む環境マネジメント

## フィリップ モリス ジャパンの社内エコ活動

フィリップ モリス ジャパンは日本でたばこの製造を行っていません。しかし、約1,800名の社員が日々事業活動を行うことによって与える環境への影響は少なくないと認識しています。

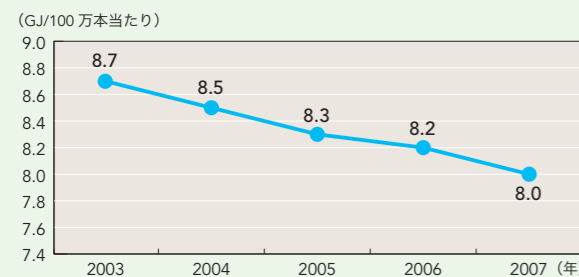
- 森林伐採を回避し、森林の再生を促すプログラムの確立
- 化学農薬使用削減のための代替技術の導入など、総合的な害虫対策
- エネルギーの効率的利用の促進
- 地下水、帯水層およびその他の水資源を保護するプログラムへの参加

### 製造工場におけるエネルギー使用量とCO<sub>2</sub>の削減

PMIでは、環境に配慮した製造活動を行っています。2004年には、すべての工場で“エネルギーイヤー2004”を打ち出し、エネルギー評価ツール、成功事例集、エネルギー・マッピング・ツールを開発しました。その結果、2003年を基準にし、2004年から2008年にかけて10パーセント近くの使用エネルギー削減を達成しました。また、電力や化石燃料の消費を減らしたことで、CO<sub>2</sub>の排出量も2004年から2008年にかけて、3パーセント減少しました。

2008年、スイスではCO<sub>2</sub>を排出する燃料に課せられる炭素税を導入しています。日本で販売している当社製品の多くはスイス工場で製造されています。このスイス

#### ■ エネルギー使用量



工場は、2000年から2010年にかけてのエネルギー削減プログラムと2010年までに達成するCO<sub>2</sub>削減目標についてスイス当局の合意を得ているために、炭素税を免除されています。

### 製造工場やオフィスにおける3R

PMIでは3R (リデュース、リユース、リサイクル) を推進しています。

PMIの水使用量は順調に削減されており、2003年を基準に、2004年から2008年の間に約26パーセントの削減を達成しました。これは1年間に約120万立方メートル削減されたことになり、オリンピックのスイミングプール約700杯分に相当します。スイスでは、オフィスや工場の冷暖房に湖水の再利用を行っており、これがCO<sub>2</sub>の排出量を抑えることに貢献しています。また、アジアやアフリカなどの工場では、一度使用した水を敷地内の緑化のために再利用しています。

PMIは工場から出る紙や金属などの廃棄物の約75パーセントを再資源化のため、リサイクル業者に引き渡しています。

#### ■ 3Rの図



フィリップ モリス ジャパンでは、社員一人ひとりの気づきや行動変容が、事業の環境負荷低減につながると考え、社内でのエコ活動に積極的に取り組んでいます。

#### マイマグの推進

2007年、当社社における缶飲料、ペットボトル、パックジュース、紙コップを原則廃止し、代わりにマイマグ (各自のカップ) の使用を促進する活動を実施しました。結果として缶約6,800本/月、ペットボトル約5,500本/月、紙コップ約2,200個/月の削減を達成しました。



マイマグ

#### エコバッグ運動の推進

スーパーなどのレジ袋の使用を控え、一人ひとりがエコバッグを持つことで、ごみの削減、資源の使用量の削減、そして温室効果ガスの排出量削減等の効果を得ることができます。当社はそのような考えのもと、オリジナルのエコバッグを製作し、2007年には全社員に配布したほか、地方自治体、環境保護団体、取引先など、約15万枚のエコバッグを提供しました。



エコバッグ

#### エコキャップ運動

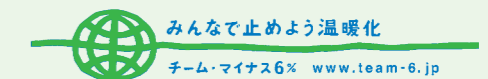
やむを得ずペットボトルの飲料を利用した際には、キャップを分別し、エコキャップ推進協会を通してリサイクル業者に送る活動をしています。リサイクル業者から得た収益で、エコキャップ協会が発展途上国の子どもたちのためにワクチンを供給する仕組みです。



ペットボトルのキャップ回収ボックス

#### チーム・マイナス6%への参加

当社は、地球温暖化防止に関する京都議定書の発効などを背景に、CO<sub>2</sub>削減に向けて政府が推進する国民的プロジェクト「チーム・マイナス6%」に参加しています。



#### エコ情報の発信

省資源・省エネルギー・リサイクル活動を推進するため、エコドライブ、水や電力の節約、ごみの分別などについての情報を全社員に向けて発信しています。また、環境保護に携わる専門家を招いてセミナーを開催しています。



環境NPOによるセミナー